

岡崎駅東地区社会資本整備総合交付金 評価委員会議事録

1. 開会の日時 平成26年11月19日(水) 午後1時30分～3時30分

2. 開会の場所 南部市民センター(シビックセンター内)第3講習室

3. 出席者

(評価委員)

委員長：都市計画審議会委員・皇學館大学現代日本社会学部長 宮川 泰夫

委員：都市計画審議会委員・愛知工業大学工学部教授 松本 壮一郎

委員：都市計画審議会委員・名城大学理工学部教授 松本 幸正

委員：西三河都市計画事業岡崎駅東土地区画整理審議会会長 新家 和敏

委員：出合いの駅おかざき推進協議会副会長 服部 良男

(事務局)

岡崎市企画財政部企画課班長 畔柳

岡崎市企画財政部企画課主任主査 平岩

岡崎市都市整備部市街地整備課班長 太田

岡崎市都市整備部市街地整備課主査 野村

岡崎市都市整備部市街地整備課技師 秦

岡崎市都市整備部公園緑地課主任主査 小林

岡崎市文化芸術部文化総務課班長 前島

(傍聴人)

なし

4. 議事要旨

現地視察

1 辞令交付

2 事後評価制度の概要についての説明

3 岡崎駅東地区の事業概要についての説明

4 事後評価手続き等に係る審議

(1) 事後評価方法書

(2) 成果の評価

(3) 実施過程の評価

(4) 効果発現要因の整理

(5) 事後評価原案の公表

5 今後のまちづくり方策に係る審議

(1) 今後のまちづくり方策

(2) フォローアップ計画

6 評価委員会後のスケジュールについて

5. 配布資料

- ・資料1 評価委員会設置要綱・委員名簿
- ・資料2 評価委員会検討資料
- ・参考資料1 都市再生整備計画（第2回変更）
- ・参考資料2 都市再生整備計画事後評価方法書
- ・参考資料3 都市再生整備計画事後評価シート（原案）

6. 議事要領（開会 午後1時30分）

1 辞令交付

事務局より挨拶と委員の紹介を行った。

事務局	議事に入る前に、委員長を選出する。要綱第6条に基づき市長の指名により委員長を選出するため、宮川委員にお願いする。 （委員を席順に紹介） 本日のスケジュールは、次第のとおり、現地視察を行い、その後審議に入る。現地視察は、車で岡崎駅まで移動し、①駅に設置したエスカレーター、②歩行者重視道路、③ポケットパーク、④5号公園の順に視察し、会議室へ戻る。 （現地視察）
-----	--

事務局	お疲れ様でした。 ここからの議会の進行は、宮川委員長にお願いします。
-----	---

2 事後評価制度の概要についての説明

事務局より事後評価制度の概要についての説明を行った。

委員長	今の説明で何か質問はありますか。 （なし）
-----	------------------------------

3 岡崎駅東地区の事業概要についての説明

事務局より岡崎駅東地区の事業概要についての説明を行った。

委員長	今の説明で何か質問はありますか。
-----	------------------

委 員	地区計画は定められていないのか。 区画整理は完了しているのか。
事 務 局	地区計画は定めていない。 区画整理は事業中で平成 31 年度まで事業期間がある。
委 員	保留地は残っているのか。
事 務 局	岡崎駅東の区画整理事業は、保留地はない。 区画道路、換地の整備はすべて終わっていて、建物移転もほぼ終わ っている。
委 員	減歩により道路、公園を生み出したものか。 事業費は国費と市の負担によるものか。
事 務 局	道路、公園は減歩により生み出したものである。 事業費は国費と市負担によるもので、保留地処分金はない。
委 員 長	基本的には一応終了しているということか。
事 務 局	進捗率は、事業費ベースで 81.6%である。J R を東西に結ぶ幹線道 路が未整備で 18.4%の未整備事業がある。
委 員	現場を歩いた道路以外で本事業にて整備した道路はあるか。
事 務 局	区画整理全体をパッケージの都市再生区画整理事業として区画道路 を何本か整備している。
委 員	都市再生整備計画は、P D C A を回してそれを軸に計画に反映して いくということだが、平成 17 年からの第一期事業の結果、第二期計画 に改善として位置づけたものはあったか。

事務局 第一期でも事後評価とフォローアップを行い、都市機能の充実、地域コミュニティの向上は成果を持続させるために必要な事項、交流機能、歩行者支援機能の強化、賑わいのある魅力的な市街地形成というのは今後改善が必要な事項として事後評価を受け今回の目標を設定している。

委員 今回も事後評価の結果を踏まえて、次期の第三期に繋げていくということか。

第一期時に特定の要望とか、強い改善意見はなかったか。例えば賑わいづくりなど。

事務局 もともと賑わいの創出というのは第一期の大きいテーマであり、アンケートを取る中でより駅前の賑わいを創出してほしいという要望もありそれを受けて第二期でも駅前広場の整備やまちづくり講演会の実施などを継続的に取り組んでいる。

4 事後評価手続き等に係る審議

事務局より後評価手続き等に係る審議についての説明を行った。

5 今後のまちづくり方策に係る審議

事務局より今後のまちづくり方策に係る審議についての説明を行った。

委員長 何か質問、意見はあるか。

員 指標のアンケート調査の回収率は、従前値のH21時点では2割弱であるが今回の評価時では約4割に大幅に上昇している。確実に地域住民の関心が高まっておりこれは一つの成果といえる。関心の高まる中で不満も増える中で大きく改善されており概ね良好な評価と考える。むしろ目標値が高すぎた感がある。

指標改善に貢献した事業が挙げられているがどのような基準、方針によるものか。

未解決の課題として交通混雑、歩行者の安心な歩行空間への対策として公共交通の活用が大変重要だと思う。限られた空間で車利用に対応するためには基盤整備が必要であるが、そのような街が望まれているのか。車が集まれば単なる混雑、人が集まれば賑わいとなり、賑わいを作るためには車は必ずしも必要ではない。ただ今現状アクセスがないから車で来ざる得ない状況であり、公共交通を充実させる方向を考える必要がある。

安心な歩行空間については、整備途中のため十分な評価は出てないが、運用上で対策も可能であり、今後検討できればと思う。

委

員

出会いの駅おかざき推進協議会は、商工会議所という商業団体が母体に事務局を持った組織であり、他の地域とは違ってこの地域のいろんなイベント、賑わい作りができるひとつの理由と考える。それにより地域住民の意識も高い地域である。

また、この地域はマンションが非常にたくさんできており、後から入ってこられた方々は商業施設、食べる場所がない、ショッピングする場所がないなど無いことだけを見られるが、基本的に我々が選んできたのは、大規模の商業施設に代えられないまちづくりにしようという考えでやってきた結果である。新たに入ってきて来られた方がこのまちの中でどうゆう関わり合いをしていくのかというのが我々の一つ大きな課題と感じている。

それから商業施設も入ってくるが、この推進協議会の会員になって一緒になってまちをつくるということにどのように巻き込んでいくかということが安全ということでも重要な課題である。

地域の安全では、これまで岡崎市の駅前は一宮市、豊田市とならんで自転車の盗難が多かったが、駐輪場、防犯カメラの整備、ボランティアの方々の活動で改善されたように感じている。

シビックコアセンターは、イベント等の効果が表れており、この地区を超えた広範囲の地区から祭りやイベントが開催されている。施設は出来たので、これをどう活かしていくかが課題と感じている。

委

員

先ほど現場を歩いたが出会いの小径は来訪者が散策したくなるような状況ではないと感じた。あまりにも駐車場が多すぎる。

一方、平成24年データを見ると、JRは1日16,730人くらい乗り降りしている。愛知環状鉄道でも4,470人くらい。4年前からいくと増加しており、駅にいろんな人が増えているという数字が出ている。このように利用者が増えており、今後発展する地域だと思う。

ポケットパークを人々が利用するにはどのような方法が良いのか、市では今まで面的整備をやってきているが、地権者の方の考えが変わってくるような魅力ある方法でのまちづくりを考える必要があると思

委

員

う。

一宮市や豊田市は、駅に人が集めるという設計思想を持っているが、岡崎駅は道路の幅員や駅前広場の作り方など、人が集まってくるような設計になっていない。昔の岡崎駅前には映画館もあり、30年くらい前は食べる場所もあり、岡崎駅へ来る用事があったが、今は名古屋市や豊橋市へ行くために駅を利用する人ばかりで、岡崎駅周辺を目的地とするような受け皿ができていない。また、マンションなどができた場合の受け皿として、現状の道路幅で処理可能か心配であり、オープンスペースを確保するような計画ができる状況となればよいと思う。

前回の評価委員会の時は、だいぶ期待感をもっていたが、どうしてまちづくりが進まないのかなと感じている。今までは新たに作ろうということでは必死だったと思うが、今後は整備された段階での新しい視点でのデザインを入れて行かないと、少し寂しいまちとなる。

歩いた感じでは、まちに開放したところがなく、例えば幼稚園で、子どもが遊んでいる姿が外から見えるようにするなど、まちに開けた意識が持てるようなデザインが必要だと思う。

この地域は区画整理により新たなまちができ再スタートであり、そこに他にない難しさがあると思う。

委員長 岡崎市の場合には総代制も含めてコミュニティがしっかりしているが、本地区の場合には新旧の住民が混住している。住民と商業、マンションと戸建ての4つの軸で、コミュニティを形成するうえで何が問題かを明らかにさせたいと、新しいコミュニティを創造することが必要である。また、道路等整備後の広がりの中で、土地区画整理により未利用地となっている土地を含めて、先ほど委員が言ったことは重要なポイントである。

岡崎市のまち自体も以前と比べ、ずいぶん変わってきていると思う。この地区や東岡崎地区、自然科学研究機構を含めたエリアに都市核を作るには、都市計画の視点や実際のまちづくりの視点からどのような課題があるかを市内部で議論し、その課題とまちづくりの方向性について外部の人に知ってもらうことが大切と思う。

委員 岡崎市でも今、総合計画の見直しに入っているが、800戸、40haしかないこの地域の中だけで様々な機能を持とうと考えるのは無理がある。地域の経済情勢も芳しくない中、商工会議所も縮小しているのが現状である。この地域の発展には地域循環型経済という新たな軸で考える必要がある。

この総合計画には、2020年に岡崎駅南土地区画整理地内で病院が建設されると記載されており、例えば岡崎駅前を健康、介護など岡崎市の中で特定な何かをもった人たちが集まるような仕掛けを考えるなど、病院の建設と併せてこの地域の特色を計画に位置づけることも必要だと思う。その中で出合いの駅おかざき推進協議会などが入れるところがあれば取り組んでいきたい。

委員 駅前というのは集まってくるところなので、通過点ではいけない。

委員長 名古屋の都市圏全体で見たときも、刈谷市、安城市、豊田市との関わり合いの中で、岡崎市がこういった役割を担うかが一番大きな課題となる。

世の中の流れや見えてきた方向を上手く組み込みながら、最終の方

向に修繕させていくと良い。

6 評価委員会後のスケジュールについて

事務局より評価委員会後のスケジュールについて説明を行った。

委 員 長 何かご意見等あるか。

(なし)

事 務 局 以上をもって、岡崎駅東地区社会資本整備総合交付金評価委員会を
終了する。

(閉会 午後3時30分)